

# 行政調査特別委員会行政視察結果報告書

平成28年9月16日

報告者	第5班〔会派：成和〕		
参加者	班長：山越 梯一	副班長：和田 公伸	齋藤 敏夫
	生井 一郎		

## ◆視察項目

実施年月	平成28年7月19日（火）～平成28年7月22日（金）		
視察目	1	食育・地産地消 ～まるごと！はくさん！～について	石川県白山市
	2	地域雇用（産業の活性化）について	石川県白山市
	3	観光振興（観光誘客）施策について	石川県能美市
	4	2018国体に向けた取り組みについて	福井県丹生郡 越前町
	5	空き家対策について	京都府綾部市
視察先概要	白山市	<p>*人口： 112,891人 *面積： 754.93 k m<sup>2</sup></p> <p>*特徴： 平成17年2月、旧松任市、石川郡2町5村の合併により誕生。石川県加賀地方の中央部、金沢市の南西部に位置する。平成27年の北陸新幹線金沢開業を追い風に更なる広域な観光資源のほか、食や特産品等のPRにも注力。</p>	
	能美市	<p>*人口： 49,950人 *面積： 84.14 k m<sup>2</sup></p> <p>*特徴： 平成17年2月、根上町・寺井町・辰口町の合併により誕生。県都金沢市の南西20kmに位置する。伝統工芸の九谷焼で、陶磁器の製造・卸売業が盛ん。「金沢の奥座敷」と呼ばれる辰口温泉など多様な歴史・文化を有する。</p>	
	越前町	<p>*人口： 22,723人 *面積： 152.97 k m<sup>2</sup></p> <p>*特徴： 平成17年2月、朝日町、宮崎村、越前町、織田町の合併により誕生。平成30年「福井しあわせ元気国体」のホッケーの開催地。2020年東京オリンピックの練習会場誘致にも積極的に取り組んでいる。</p>	
	綾部市	<p>*人口： 34,690人 *面積： 347.10 k m<sup>2</sup></p> <p>*特徴： 京都府のほぼ中央に位置する田園都市。舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道のクロスポイントを置く。限界集落を「水源の里」と名づけ、交流から定住による地域振興を目指している。</p>	

## ◆視察結果（個別票）

個別項目	「食育・地産地消～まるごと！はくさん！～」について			【石川県白山市】
	視察先担当課	地産地消課	添付資料	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

### I 視察要旨

多様な農林水産業の展開が求められる中、農業の担い手の減少や農産物の価格低迷、旬のものを食べる習慣の希薄化、農業と地域のつながりの希薄化などの問題が山積しつつあり、それらの課題解決に向けて市民・生産者・事業者をはじめ関係機関・団体・行政などが共通認識を持ち、連携しながら地産地消に取り組んでいく必要があり、これらに向けて「地産地消課」を設けて積極的に取り組んでいる先進自治体の調査研究をして参りました。

### II 事業の成果・課題

白山市は平成27年3月に平成31年度までの5年間を目途に「地域の農林水産物の利用の促進についての計画」として「第2次地産地消推進計画」を策定し、地産地消に関する施策を統合的かつ効果的に推進し、農林水産物への安心感の確保、地元での消費拡大、流通コストの低減、田園景観の保全、食文化の継承などの期待される効果の実現に向けて、そして何よりもこれらが地域を元気にさせることにつながることを最終目標に、それに基づいた活動を実施しております。

○計画の基本テーマ：「白山を食べる」

○地産地消の3つの柱：はぐくむ（生産） つなぐ（流通） いただく（消費）

#### <主な取り組み状況>

##### ① 情報発信の強化

- ・市ホームページで「食育・地産地消まるごとはくさん」を開設し年80回の更新

##### ② 地産地消ガイドの作成・配布

##### ③ 「まちかど市民講座」等の活用

##### ④ アンケート調査の実施

##### ⑤ 「地産地消推進計画」の策定

⑥ 食育活動の展開

- ・ 幼児料理教室・早寝早起き朝ごはん運動の展開
- ・ 生産者との交流給食会の開催

⑦ 消費拡大の推進

- ・ レシピの公募・郷土料理伝統料理の伝承
- ・ 食の商談会の開催

### Ⅲ 今後の課題と取り組み方針と所見

農業は食糧生産を担う大切な産業であり、食材を通じて地元の良さを再発見するとともに、これらに関する情報発信と人づくりに努めながら市民協働による「食育・地産地消」の街づくりを進めていくため、市民（消費者、生産者）のニーズの把握と更なる地元農林水産物の消費拡大と流通促進に取り組むとしており、日光市としてもこれらを参考にしながらより一層の推進体制の整備を計りつつ市民意識の高揚に取り組む必要があると感じました。

## ◆視察結果（個別票）

個別項目	「地域雇用（産業の活性化）」について		【石川県白山市】	
	視察先担当課	産業部観光課	添付資料	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

### I 視察要旨

自然豊かな「自然共生都市」を目指す白山市は上場企業本社数が8社あり北陸有数の工業都市でもある。また中小企業の割合が高いがそれぞれが独自の技術によって「世界的な企業」として発展しているものが数多く、技術と個性あふれる優秀な企業が集積しているまちでもあり、人口減少が甚だしく、安定した生活を支える「しごと」をつくる環境づくりを目指す必要がある当市にとって参考にすべきと先進地視察をした。

- 女性就業率が石川県は全国第1位であり、中でも白山市は其中でトップであり53%の就業率を誇る
- 有効求人倍率は新幹線効果もあり平成27年前半期において約1.9倍（全国平均1.34倍）となっている

### II 事業の成果・課題

地域の特性、求職者のニーズに合った働き場の創出についての取り組み状況

- ① 合同説明会の開催
- ② 石川県が「いしかわ就職・定住総合サポートセンターを設置」し移住、定住、就職相談として県内企業とのマッチングを一体的にサポートしている
- ③ 定住促進支援制度（住宅新築補助制度）
- ④ 企業誘致施策として
  - ・工業立地助成の他に、立地企業従業員定住促進事業を取り入れ交付対象企業に就業するために市外から転入した社員の支援制度として
  - ・育児休業代替要員確保等助成金制度
- ⑤ 平成27年に白山市創業支援事業計画を策定（経済団体、金融機関と連携し市内創業希望者の支援を行っている）
- ⑥ 平成28年に白山市中小企業振興計画を策定する予定

### Ⅲ 視察所見

白山市は、それぞれの地域の「強み」を生かした産業の活性化策に取り組んでおり、その取り組み実績も着実に上昇しております。

日光市にとって地域経済の活性化を促進し、様々な雇用を創り出すことは今後の発展において至上命題であり、これらを参考にしつつ、特に起業家支援、現在策定中の中小企業振興条例に基づいた振興計画を策定し早期にその具現化に取り組むこととし経済団体等との連携を計りながら目標数値を盛り込んだ具体的な施策に取り組むべきと考えます。

## ◆視察結果（個別票）

個別項目	観光振興（観光誘客）施策について		【石川県能美市】	
	視察先担当課	市民生活部観光交流課	添付資料	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

### I 視察要旨

能美市は盛んな企業立地により、国内有数の先端産業が集積し県内産業の中心的機能をも担い、ものづくりのまち便利な地方都市として栄えてきた。従来、観光に特化した計画や施策が必ずしも充実していたとは言えなかったが、北陸新幹線金沢開業による新たな観光への取り組み状況を視察研修してきた。

### II 事業の成果・課題

#### 九谷焼×ウルトラマン “ウルトラなまちづくり事業”

北陸新幹線金沢開業を見据えた、新たな観光を軸としたまちづくり事業。職員からの提案型事業として平成22年度から実施。

観光にとっては欠かせない資源、九谷焼が持つ力を観光振興に活用、さらに能美市の観光資源として年間40万人の来場者を数える手取フィッシュランドに併設されている「ウルトラマンスタジアム（全国で唯一のウルトラマン常駐施設）」を有していること、また、今年没後10年にあたる能美市出身の脚本家、故・佐々木守氏が「ウルトラマンシリーズ」の脚本を手掛けていたご縁から、九谷焼とウルトラマンとのコラボによる事業「九谷焼ウルトラマンシリーズ」の開発を一つの事業の柱とした。

手びねりやろくろで食器や花器などを作る作陶体験や白磁の器を使った絵付け体験ができる。指導員が丁寧に教えてくれるので、陶芸が初めてという人も安心して、一番人気はウルトラマンやバルタン星人など全10種類の九谷焼ウルトラマンシリーズの絵付け体験であり、能美市に来ないとできないため、誘客につながって事業効果を得ている。

新幹線開業による誘客のためのイベント実施、外国人観光客増などが影響し、九谷陶芸村入込客数は平成27年は平成26年に比べ約160%の伸びを記録した。今後この効果をどう継続させるかが課題であり、九谷焼のテーマパークとして今後とも受け入れ態勢の整備・充実が必要である。外国人観光客への対応強化や新幹

線・航空機・高速道路などが整備され、首都圏とも日帰りが可能となり便利さをアピールし能美市ファンを一人でも増やしていくことも課題である。新たな「観光振興」も地域活性化、ひいては地域創生の重要なキーポイントであり市民一人ひとりが地域資源を誇りに思い、磨きをかけアピールしていくと期待を寄せていた。

### Ⅲ 視察所見

日光市の観光振興（観光誘客）は、大きな基幹産業である。全国に発信できるような恵まれた観光資源により多くの観光客に訪れていただき、市内回遊性を高めるとともに地域経済の活性化、更に様々な産業に波及効果を期待することが観光への強い思いである。

能美市では、新幹線開業効果と思われるが、関東圏・東北圏、更に東南アジア・中国・台湾・欧米諸国からの入込増など新たな観光振興による活力あるまちづくりに本格的に取り組み始めた。能美市観光ビジョンでは、「市民一人ひとりのおもてなしで来訪者が感動する魅力あふれるまちづくり」と明示し、職員からの提案型事業として、九谷焼とウルトラマンとのコラボによる事業など誘客に一定の成果は上げているものの、今後この効果をどう継続させるかが課題であり、行政主導から観光に関する情報の一元化、柔軟な行動力保持のためにも専門的組織が必要と強く感じた。

## ◆視察結果（個別票）

個別項目	2018 国体に向けた取り組みについて		【福井県丹生郡越前町】	
	視察先担当課	スポーツ振興課国体推進室	添付資料	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

### I 視察要旨

越前町は当市同様、「ホッケーのまち」として取り組みを進められ、世代別の各種大会においても数多くの功績を残されております。その取り組み状況は正に町を挙げて進められております。

2年後の2018年に福井国体を控えられていることから、現在の推進状況と「ホッケーのまち」としての町の関わりについて調査致しました。

### II 事業の成果・課題

越前町のホッケー競技は昭和37年に県ホッケー協会設立以降、昭和43年の国体開催や昭和45年には全国初となるスポーツ少年団が誕生し、更には昭和51年にホッケー競技振興による文部大臣表彰を受けるなどホッケーによる町の取り組みによって様々な効果が得られ、それ以降も世代別各種大会において多くの全国制覇を果たし、全国に名を上げてホッケーブランドとして町の振興に寄与されてきたと思われまます。その後においても各種団体の優秀な成績に合わせたように施設整備も進み、県と町の連携によって県の人工芝コート、国際公認を取得された町営人工芝ホッケー場コート2面、屋内トレーニング室や会議室、電光掲示板を兼ね備えた管理棟を整備され、特に県営施設内に町が管理棟を整備するという取り組みは非常に特出した事例であると関心致しました。

毎年の大会事業におきましても各種活動において多くの事業費が出されており、成果は各種大会において出ておりました。その他、中学生11人制選手権開催事業においては有効な助成金なども活用され県外地域からの選手来訪においての「おもてなし」や宿泊施設の受け入れなどの取り組みによって町の経済振興に大きく貢献されておりました。

国体については平成28年度、国体準備事業費として3,574,000円予算化され、実行委員会運営費や臨時職員を採用し取り組まれております。平成29年度は11,000,000円（概算額）、平成30年度30,000,000円（概算額）

を計画され2年後の「福井しあわせ元気国体」でのホッケー競技受け入れに向けて磐石の体制で取り組まれておりました。

当市同様に少子化による競技人口の減少が一番の課題であり、一番の底辺であるスポ少や中学での合併や合同チーム編成などを余儀なくされ問題山積とのことでした。人口減少から更に少子化が進む中で、底辺拡大を図るには、先ず遠回りかもしれないがシニア世代から競技者を発掘しホッケー関係者やサポーターを増やし国体へ向け準備することが大切であります。

### Ⅲ 視察所見

「ホッケーのまち」として町全体で「ホッケー競技」に理解と関心を示し協力することによって、今まで築き上げられた地域に根ざされたホッケー文化が守られ今後も受け継がれ、そして更に魅力あるスポーツ文化として発展されてきた越前町。

当市としても多くのホッケー競技者が存在し、ホッケーの歴史と伝統に縁が深い自治体としてまちづくりが進められております。過渡期に新たな事業展開を期待します。

## ◆視察結果（個別票）

個別項目	空き家対策について			【京都府綾部市】
	視察先担当課	定住交流部定住促進課	添付資料	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

### I 視察要旨

綾部市では、過去5年平均453人の人口減少が進む中、定住サポート総合窓口による定住世帯目標 年15世帯を掲げて、平成20年から平成25年定住実績合計117世帯 272人〔(一社)移住交流推進機構調全国3位「H26年1月現在」〕という成果を上げた。空き家は定住促進の貴重なツールとのこと、取り組み状況を視察研修してきた。

### II 事業の成果・課題

平成20年度に企画部企画広報課に定住サポート総合窓口を設置し、空き家バンク、定住希望者相談活動を開始。平成22年度に定住促進課を設置し、定住サポート総合窓口を所管。

【あやべ定住サポート総合窓口】の活動内容

#### 1. あやべ定住サポート総合窓口（定住相談ワンストップ窓口）

- 空き家登録制度（空き家バンク）・・・空き家は定住促進の貴重なツール
  - 地域・・・過疎・高齢化による空き家の増加「負の遺産」
  - 定住希望者・・・農業回帰 田舎暮らし希望者は古民家を希望
  - 空き家バンク登録件数・・・約30軒
- 情報発信・・・HP、メルマガによる市内イベント、空き家の情報発信
  - 定住希望者・・・約600人
- 定住相談・・・地域とともに地域の一員として生活する定住者が対象
  - 自治会への加入、地域の活動の説明、あいさつ回り等
- 就職、就農相談・・・ハローワーク、市農林課、府農業会議等との連携

#### 2. 空き家の流動化を促進させるための施策

- 空き家流動化報奨金給付制度・・・空き家提供者へ10万円の謝礼

【実績】 H23年度19件 H24年度13件 H25年度13件  
H26年度13件 H27年度10件

- 自治会との定住促進及び空き家流動化懇談会の開催
- 固定資産税納税通知書封筒への空き家提供依頼シール貼り付け
- 空き家実態調査「H26～」による空き家バンクへの登録呼びかけ

【H27実績】 空き家総数735戸うち、使用可能601戸 不可134戸

- 空き家管理事業者紹介制度・・・空き家の管理事業者を紹介 8事業者

### 3. 定住者を誘導するための施策

- 定住支援住宅の整備

市が空き家を10年間無償でお借りし、トイレの水洗化等の改修を予算内（300万円）で実施し定住希望者へ賃貸する。

- ・年齢制限 入居者の年齢が50歳未満で構成されている世帯
- ・入居期間 3年間
- ・家賃 月額3万円（別途 敷金9万円）

- 宅建等事業者との連携

空き家の売買・賃貸契約時の法的手続きを市内宅建業者へ委託

- ・委託先 綾部商工会議所（協力事業者9社）
- ・委託料 120千円/年

【実績】 H23年度35件 H24年度20件 H25年度11件  
H26年度11件 H27年度32件

- 空き家見学ツアーの開催

定住希望登録者を対象とした空き家見学ツアーの開催（冬季）

【参加実績】 H20年度61世帯119人 H21年度22世帯33人  
H22年度11世帯 18人 H23年度14世帯29人  
H24年度13世帯 22人 H25年度15世帯33人  
H26年度 5世帯 7人 H27年度 7世帯16人

- 定住者宅への訪問活動

定住者宅を年一回以上訪問し、生活の様子を伺うなど相談活動により、問題の早期発見・解決に努めるとともに、必要な新たな施策を模索する。

### ○空き家活用定住支援事業費補助金【H26.4.1～】

定住希望者が空き家を購入又は賃貸して行う改修工事に対する補助

- ・年齢制限 55歳未満の者又は転入後において55歳未満と同一の世帯に属する者

- ・市内事業者による改修工事等

【補助率】 対象経費の2/3

【金額】 1,800千円（一部の地域では900千円）を上限

【実績】 H26年度11件 H27年度17件

### Ⅲ 視察所見

交流の拡大と定住促進、UIターン者を加えた地域振興を図り人口減少に歯止めをかけ、持続可能なまちづくりに向けた取組を進めていかなければならないと、平成26年4月1日「綾部市住みたくなるまち定住促進条例」を制定した。過疎・高齢化による空き家の増加は「負の遺産」ととらえ、逆に貴重なツールという発想。特に住環境（空き家対策）では自治会との定住促進及び空き家流動化懇談会を開催するなど、市、市民等及び事業者が一丸となって連携し、積極的に協働しなければ、今後ますます増え続けるであろう空き家対策は課題山積であると実感した。